

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1950880045
法人名	医療法人 千歳会
事業所名	グループホーム甲西
所在地	〒 400-0402 山梨県南アルプス市田島1105番地 電話番号 055-280-8700

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年10月30日	評価確定日	平成19年11月29日

【情報提供票より】 H19,10,12 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年8月17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	7人	常勤	6人 非常勤 1人 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	0 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合 償却の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
食材料費	朝食	0 円	昼食 0 円
	夕食	0 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 1500 円		

(4) 利用者の概要 H19,10,12 現在

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	巨摩共立病院 ・ 高原病院 ・ 内藤歯科医院 ・ 淡路歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日 平成19年10月30日

老健・デイケアとが併設されている建物1階南側に面しており、広い駐車場を囲んで田園が広がっているのどかな環境にある。入り口には小さいながら手作りの案内板が置かれていて、ホーム内は広々としており落ち着いた雰囲気である。ホール正面には「人生は背のびをしても同じこと」と利用者の書が掲示してあり、利用者と職員が共に、自然体で生活している様子が伺える。また何人かの利用者はホームの生活の中で症状が改善しており、車椅子歩行で入所された利用者が要支援となる等サービスの質は高い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前年の評価とは、評価内容の違いはあるが、前回の調査の改善点を職員全員が把握しており、改善する努力をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 前回の評価の改善点、日々の記録をもとに、より高いサービスの向上をめざして自己評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 市福祉部のグループホーム担当職員から、参考意見を聞きながら、評価内容を検討、改善に向けての討議を行っている。現在は、「足湯」の設置に向けての検討が行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 併設老健の1階に相談窓口と、月々の支払い場所がある。家族が支払いに見えた折、苦情・意見などを、話していかれる。それらを真摯に受け止め、運営・サービスの向上のために生かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎日行く散歩では挨拶を気軽に交すように心がけ、地域の人と良い馴染みの関係が作られている。地区の行事の際には獅子舞の訪問もある。ホームの納涼会の折には、近隣にチラシを配布し参加してもらっている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホーム甲西

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの尊厳をまもり、個性豊かに、にこやかに過せるためのサービスの提供に努めることを柱として取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	計画作成担当者・職員は、申し送り、スタッフ会議のうちに理念についての確認を行い、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々、散歩をすることにより、地域とは良い馴染みの関係が作られている。折々の野菜などもお土産にもらい、食卓にのぼる。地域の祭りのおりには獅子舞などの訪問がある。ホームの夏祭りにも参加してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員で取り組むことによりサービスのありかたを再確認している。外部評価で指摘された改善点について、カンファレンス・運営推進会議の折、問題提起し改善につとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果・利用者の現状を踏まえて、より良いサービスの向上を図るための話し合いを行っている。現在は、懸案である「足湯」の設置が検討課題である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに南アルプス市グループホーム担当者がおり、意見やアドバイスを頂いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりに担当職員が決まっており、定期的に手書きによる近況報告と共に、預り金についての収支を領収書添付の上送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口が併設施設内に設けてあり、意見・要望を聴く体制が出来ている。それらについては、面会の折家族と話し合い、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、職員の退職者はいない。代わる場合、利用者の混乱を防ぐ配慮は最大限行う準備はある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市主催の施設部会の研修に順番に参加し、当日、資料を提出して職員全員で研修内容を共有出来る体制になっている。その他、併設施設による研修会に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会主催の研修会に参加することにより、相互の意識交換が出来ている。市主催の施設部会に参加したおりも他事業所の取り組みなど参考意見を聞き、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とも相談し、併設デイサービスに通所してもらいながら、2泊3日の体験入所を実施して場の雰囲気馴染める工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の特技・経験・知識を日々の生活の中にかし、職員と協働できる関係が作られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員も利用者から学びつつ、一人ひとりの個性や思いを尊重し、共に支え合う暮らし方が考えられている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者個々の担当職員による緊況報告にたいして、家族から寄せられる意見・要望を参考に、職員全員が気付きをシートに書き込み、それらを反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しを行っている。但し、状況の変化によりその限りではない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族からの要望、その時々状況に対して柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望によりかかりつけ医への受診のサポートはおこなっている。また2週間に1度、甲西中央クリニックの医師の往診による診察を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師の居る併設老健での受け入れ態勢が整っている。入所時、家族に説明話し合いの上、同意書を得られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーの確保には細かな配慮がなされている。個人情報については、電話での問い合わせの場合、キーパーソンのみの対応としている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、ゆったりとした態度で一人ひとりの希望に添って、向きあっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員とが協力して、盛り付けや準備、後片付けを行っている。	○	職員も利用者と一緒に同じ食事をする事が出来るような環境作りの検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に3回の入浴、時間も午後の時間帯となっている。	○	利用者一人ひとりの、希望やタイミングに合わせた入浴の支援が行われることを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	押し付けでなく、日々の楽しみごとを自然体で行っていて、職員は見守りながら、声かけをしている。掃除・食事の準備・後片付けを自主的に行っている。趣味活動は習字などを行っている。習字は職員の勧めにより全国大会に出品し、入選した利用者がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に添って、散歩などの支援をおこなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は二重扉になっているが、日中は施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度、地元消防団の協力のもとに、利用者も参加しての避難訓練を実施している。全員避難するために要する時間は5分から10分である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、水分量を時間の経過に従い、細かく記録し、補給をうながしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・居間等ゆったりとしていて、明るい。職員の中のリーダーが中心となり、ハーブスティックなど利用者と共に手づくりしたもので、季節にあわせたレイアウトを工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には、何番地何号室と利用者が筆にて書いたものが表示されており、カーテンも入居時に、それぞれ好みの布を用いて職員の手作りされたものがかけられている。どの部屋も明るく鉢植え等も置かれて本人の好みに合わせる工夫がされている。		